

## 湯ノ入沢右俣

一九七九年八月十九日

### ◆天気(晴)

朝福島を出る。新高湯の駐車場に車をとめ新高湯まで歩く。前回三代道沢の出合から新高湯まで入っているので、今日は新高湯から廻行を開始する。新高湯から見える滝は二つあり、一〇<sup>ノ</sup>と八<sup>ノ</sup>程ある。岩は非常にすべりやすく注意を要する。沢全体がそのようだ。倒木を利用して最初の滝をこえ、二つ目はなんなく登る。一五分程で沢は二つに分れる。水量はどちらも少ない。沢の距離が短いだからしかたがないだろう。右に段になった五<sup>ノ</sup>程の滝があるので右に入る。右に入って最初の滝(F5)には倒木があり、兩岸はせまくガレている。沢には岩がゴロゴロしている。

小さくて滝としては心ぼそいが二<sup>ノ</sup>、六<sup>ノ</sup>(三段)と続き、十二<sup>ノ</sup>の程良い滝(F8)にぶつかる。直登できないものかと試みたが捲きをよぎなくされる。それをすぎると一〇〇<sup>ノ</sup>程のあまりきれいでないナメ。F8から

二〇分程で一五<sup>ノ</sup>の滝。それをこえると沢は再び分かれ左に入る。少々いくと水道管にぶつかり、それより上は水がかれていて岩場が続く。ヤブがかぶさってきた所で左へヤブをこぎスキー場へ出る。(記・一)

### (タイム)

新高湯九・二〇―出合九・四〇―水道管一一・〇〇―  
天元台スキー場一一・四五

## 湯ノ入沢左俣

### (下降)

一九七九年八月十九日

### ◆天気(晴)

スキー場で昼食後天元台第二リフトのはじから左俣の下降に入る。最初は伏流になっていて途中から水がわき出ている。左岸からの小沢をすぎると五<sup>ノ</sup>程の滝。その下にも小さな滝があるがなんなく下降。左岸から五<sup>ノ</sup>の滝をかけて再び小沢が入る。下降を続ける。

この沢最後の滝は一〇<sup>ノ</sup>程の落差があるが、階段状になっていたので簡単に降りる事ができる。次に出てくるのは砂防ダムで五<sup>ノ</sup>程のものが二つ。両方とも懸垂下降

で下る。右岸に大きな石がある所にくると左岸から湯がわきでている。湯を引くパイプなども見える。

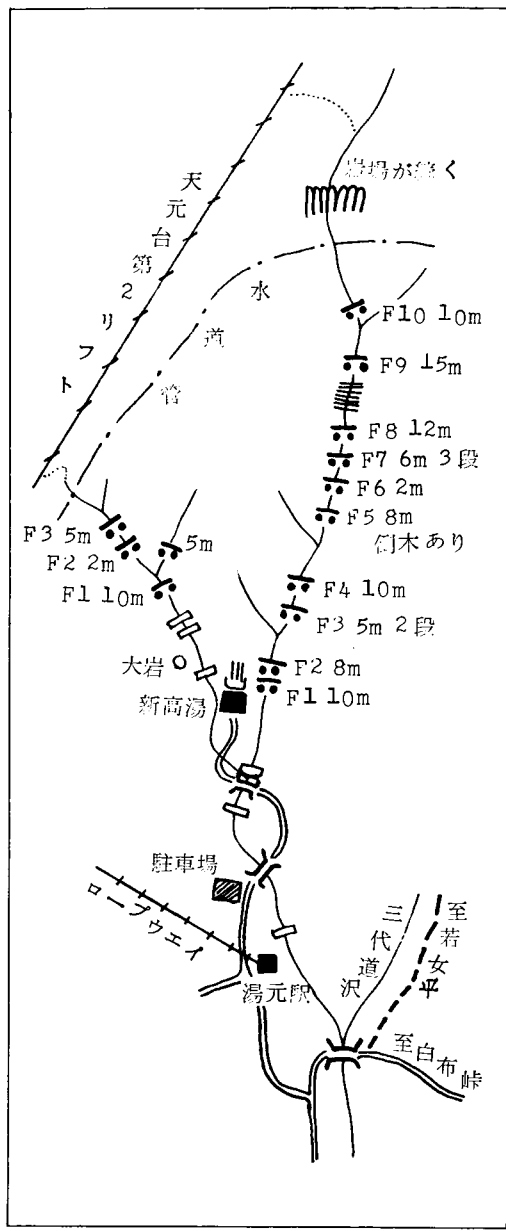
その先七段程の砂防ダムを越えるとすぐ新高湯に着いた。

〔タイム〕

下降開始二二〇—二〇—大岩一三三—二〇—新高湯一三三—

四〇

(記・和)



湯ノ沢 (作図：和)

## 松川

◆天気(晴)

松川は最上川の源流帯を構成する大きな支流の一つである。地図を見るといくつもの滝の記号があつて大いに

一九七六年八月二十二日